

ドローンによる農作物運搬実用化に向けた実証実験を実施

取組主体：ブルーイノベーション株式会社、北海道当別町

実証概要

- 当別町では、農業従事者の高齢化や人手不足の問題が懸念されており、収穫物の出荷・運搬作業の効率化や、輸送時間を削減するなど、農業従事者の負担軽減が求められている。
- 道の駅の最盛期には、集荷場所の混雑や運搬車からの農作物の積み降ろし作業の負担が大きいことから、ドローン物流が効果的であると考えた。
- ブルーイノベーション株式会社と当別町、農協など協力団体が令和2年11月12日に「ドローンが各農家の収穫物を集荷し、道の駅へ出荷する」というユースケースを想定し、ドローンによる自動操縦（オートパイロット）で、片道約800mの距離を重さ15kg相当の野菜を運搬した。

取組結果

- 安全面を考慮した上で飛行を行い、将来的な輸送時間の削減及び集荷・運搬作業の効率化が期待される。
- 今後、ブルーイノベーション株式会社と当別町、農協などで構成する協力団体の協議会で本実証実験結果を踏まえた課題を洗い出し、技術やコストなどの検証を行いながら、令和5年度実用化を目指す。

